

令和4年度 学校だより

10月号

横浜市立上郷小学校



上郷

〒247-0026 横浜市栄区犬山町6番1号

電話 045-894-0761

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamigo/>

上郷小学校の「野草園」の草花から学ぶこと

副校長 野村 光

かひなしや 水引草の 花ざかり 正岡子規

正岡子規はミズヒキの花を（甲斐なし）と詠んでいます。あまりにも小さく、地味に咲いている花をそう表現したのでしょうか。小さくてそっと咲いていても、その花盛りを見てくれている人がいるのです。…

連休も終わり、少しずつ秋めいて来たことを感じます。5年生が育てているイネの穂がこうべを下げ、その上を滑るように飛び交う、アキアカネを観察できます。

上郷小学校には、季節の変化を感じることができる自慢の場所が水田のほかにもう一つあります。それは、「野草園」です。子どもたちの昇降口と水田に挟まれた、シダレザクラの下にある2畳ほどの広さの小さな花壇がそれです。ていねいに掲示された名札を数える限り、この野草園には、およそ40種類以上の草花が生息していることが分かります。常時、季節の草花が競うように咲き、野山の草花を楽しむことができる素敵な花壇です。

春にはホトケノザやノジスミレなどが咲き始め、花壇の色が薄紫色に覆われます。初夏にはオオバコやホタルブクロがまるで季節のバトンを引き継ぐようにそれぞれの花々を咲かせていきます。夏休みが終わる、8月の下旬には、赤い小さな花を点拍子で描いたようなミズヒキが現れます。気に留めなかったら気づかないくらい小さな花を咲かせるこの花の名前の由来は、細長い花茎にまばらにつく花が、上からは赤く下からは白く見えることから、「紅白の水引」にたとえられて命名されたと言われています。確かに、花壇に近づいて、下から花を見上げると、赤く見えていた花が白く見えるから不思議です。

先日、教育実習生の指導のために学校を訪れた大学の先生が野草園をご覧になり、「限られた広さの花壇に、何種類もの野草が共存していること」に大変驚いていました。確かに、複数の草花が一定の囲まれた花壇に生息したとき、時間の経過と共に力の強い品種が茎や根を太くさせ、小さな目立たぬ品種を覆い隠してしまうものです。しかし、この野草園では、植えられた一つ一つの草花が、他を枯らすことなく上手に共存し、自分の花期に、それぞれ特徴の違う花を咲かせ続けているのです。改めて、上郷小学校の「野草園」は大切に守り続けていきたい自慢の場所だと思うのです。そして、変わりゆく季節を感じながら、それぞれの野の花から学ぶことも多いと感じます。この野草園は、学校の創設と同時に作られた花壇です。上郷小学校の前身である、矢沢小学校から移植され、その後地域のボランティアの方々によって、大切に引き継がれています。

9月20日 彼岸の入りの頃、「マンジュシャゲ」が真紅の花を咲かせ始めました。「ミズヒキ」とは真逆の存在感のある花です。この花からは、どんな発見があるのでしょうか。季節ごとに移ろい咲く草花から様々なことを感じ取れる、感性豊かな上郷小学校の子どもたちになってもらいたいと願っています。



～地域学校協働本部「Dream 上郷」について～

学校と地域保護者をつなぐ「Dream 上郷」では、学校の様々な場面で活躍していただく「ボランティア」を募集中です。「野草園」に関わる方も探しています。関心のある方は、右のQRコードを読み取り、友達追加をお願いします。（地域コーディネーター 竹内）



台風14号・15号で、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。